

PI 外環沿線会議委員 樋上 寛

都市計画案に対する意見について

1. 概要

外環道の整備は、環八など都内幹線道路の渋滞緩和、それにより発生する大気汚染物質の減少、利便性と経済効果など都内全域からみてメリットは認められる。しかしながら、地域的には東八 IC にアクセスする三鷹市内の幹線道路を走行する交通量の増加、NO₂ や SPM など大気汚染物質の拡散、排気塔排気に含まれる汚染物質の放出や飲料水用深井戸への影響など、市民の健康や生活への不安を与えるデメリットがある。1月12日までに提出される三鷹市長の意見書について、今後どのようなアクションがとられるか注視する必要がある。

2. 大深度地下方式と「外環の2」について

大深度地下式による都市計画案は、高架式に比べて住宅等の移転棟数が減り、車の排気ガスを集め浄化するなどは評価できるが、市内で発生する交通渋滞、大気汚染や地下水・地盤沈下など環境への影響が懸念される。

一方、PI 沿線会議においての議論を踏まえ、地上部街路（外環の2）の取り扱い、当面は外環整備計画の具体化を優先し、時期をみて延焼防止効果、防災や移転家屋の対策などについて関係区市および沿線住民と協議した方がよい。

3. 協働のまちづくり

ジャンクション・インターチェンジ周辺の環境整備について、国・東京都、沿線区市、沿線住民とは、協働してまちづくり事業を推進するために区間ごとの適切なまちづくり協議会を発足させる。その構成は、区市職員、学識経験者、沿線住民（団体選出、公募）とし、先ず協働協議会の準備会を設置する。

たとえば、東八 IC・中央 JCT 周辺のケースでは、以下のテーマが考えられる。

- 交通量予測から交通分散や生活道路進入についての対策。
- 蓋掛けされた部分の利用案を検討。たとえば、公園、防災倉庫、文化遺跡展示館など市民憩いの場をイメージし、施設を画像やスケッチにして開示。
- 環境施設帯に緑豊かな空間創出と減音対策。
- 三鷹市内幹線道路の街路樹を増やす対策。失われる緑の量を補うだけでなく、車による大気汚染の増加分を補償する措置。

4. 沿線住民への説明（外環オープンハウスなど）

環境への影響と保全対策、外環道整備方針や計画、沿線土地総合利用計画、PI 会議資料や沿線住民意見の公表など、諸情報を繰り返し丁寧に伝える。